3-6. 川内田地区

１．地区の概要

（１）位置・人口等

■位置

川内田地区は、益城町の東部の福原から町道袴野福原線により東に連なる集落の一部であり、東は町の最東の集落である袴野集落、西は内寺集落、北は柳水集落に接しています。

地区は、益城町の中心部（役場周辺）から直線距離で約５km 離れた場所に位置し、東西に連なる山に南北を囲まれ、山間を東西に流れる赤井川に沿って通る町道袴野福原線の沿道にあり、家屋が地区内の３か所にまとまって立地する形態をなしています。

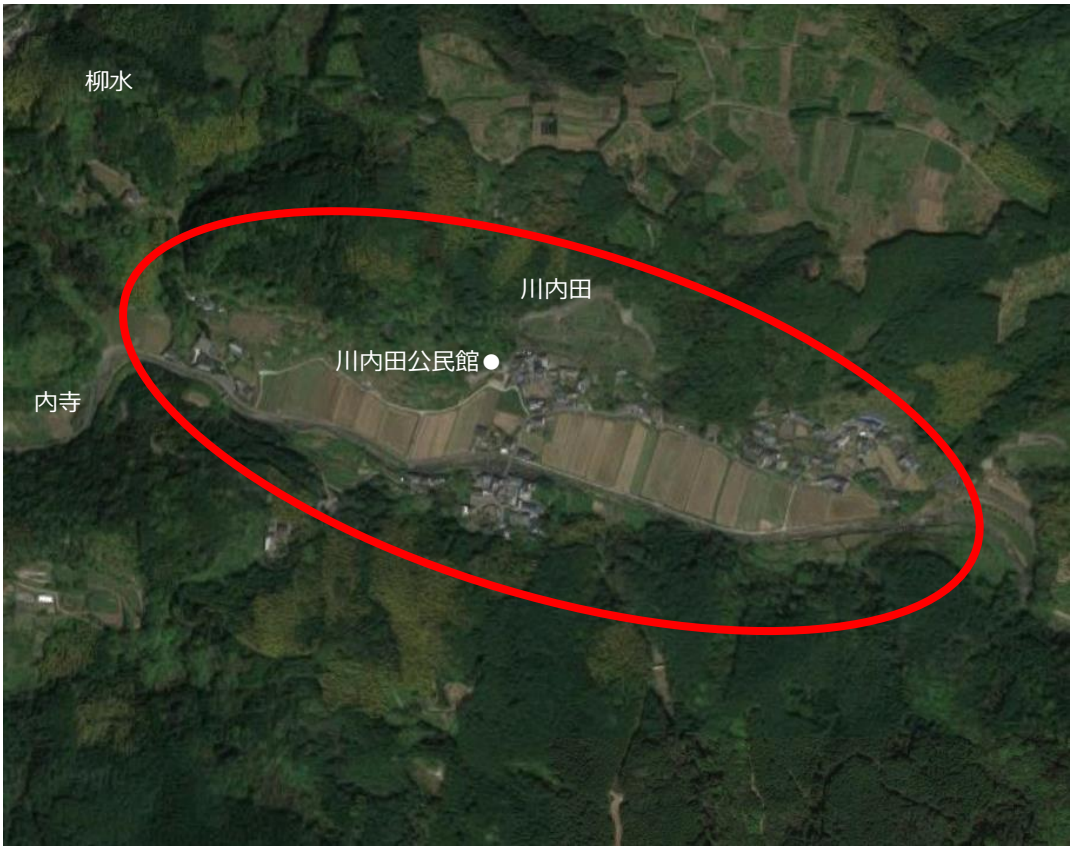

図　川内田地区

■人口等

平成 29 年３月末日の住民基本台帳によると、川内田地区の人口は 116 人、世帯数は 55 世帯（平成 29 年９月末日現在、42 世帯）となっています。

平成 25 年から 29 年までの５年間の人口・世帯数の推移をみると、震災前から人口及び世帯数は緩やかに減少していました。ただし、震災後の１年間では前年比で人口が２％、世帯数が４％減少しています。

表　川内田地区の人口推移（平成 25 年～29 年）

	平成 25 年		平成 26 年		平成 27 年		平成 28 年		平成 29 年	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
川内田	134	56	129	56	119	55	119	57	116	55
（H25 を 100 とする指数）	100	100	96	100	89	98	89	102	87	98

資料：各年 3 月住民基本台帳人口

（２）被害状況

熊本地震後１回目の住家の被害認定状況をみると、「全壊又は大規模半壊」は住家の０%と甚大な被害を受けた家屋がないことがわかります。しかし、「半壊又は一部損壊」を受けた家屋は地区のほとんどを占めています。

このため、平成 29 年９月時点において、家屋が解体され、更地（空地）の状態になっているところは７件であり、他の宅地では、改修などがみられます。

表　福田校区内大字別被災状況（住家）

	住家					
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	計
大字平田	96	17	42	106	7	268
大字福原	91	34	104	271	7	507
川内田地区	0	0	13	41	1	55

	住家					
	全壊	大規模半壊	半壊	一部損壊	無被害	計
大字平田	36%	6%	16%	40%	2%	100%
大字福原	18%	7%	21%	53%	1%	100%
川内田地区	0%	0%	24%	75%	1%	100%

（３）地区の課題

・震災前から人口は緩やかに減少傾向、震災で大きな減少。
・公共交通はなく、公共公益的施設の集積地からも遠く利便性は悪い。
・地区内の道路はほとんどが幅員４m以下。

２．地区の基本方針

川内田地区は、集落内で良好なコミュニティが形成された地区であり、震災前から緩やかに人口減少が進んでいるもののほぼ一定の人口を維持しています。

震災後は、55 世帯（平成 29 年９月末日現在、42 世帯）のうち約７世帯が仮設住宅（みなし仮設を含む）や親戚縁者等の家に移り住んでおり、これらの世帯が全員安心して笑顔で戻って来て、元の良好なコミュニティを回復させることが住民全員の共通の願いとなっています。

一方、集落の背後の山際には土砂災害特別警戒区域があり、近年の大雨による河川氾濫等の災害も考え合わせると、「戻って来ても、本当に安心して暮らせるのか」といった不安もあります。

このため、ハード・ソフトの両面から災害に備えたむらづくりを進め、地区住民が心から安心して住み続けられるむらづくりを目指すとともに、良好な自然環境を求める若い人が住み、子どもを育むむらづくりを目指します。

【むらづくりの目標・キャッチフレーズ】

“子どもを育む　清流の里　川内田（かわうちだ）”

３．避難路・避難地の計画

＜避難路＞

地区が山間部の集落であることから、内寺地区から続く町道袴野福原線は地区の重要な避難路となります。よって、町道袴野福原線の内寺地区からの入り口部分について避難しやすく、かつ緊急車両の通行などもしやすくなるように拡幅整備します。

表　避難路の整備の概要

路線名等	整備内容		整備の内訳			概算事業費
			延長	幅員	面積	
		拡幅等	（m）	（m）	（㎡）	（千円）
町道袴野福原線	地区公共施設（避難路）	拡幅	130.0	6.0	780.0	15,000

川内田地区 【６ｍ】

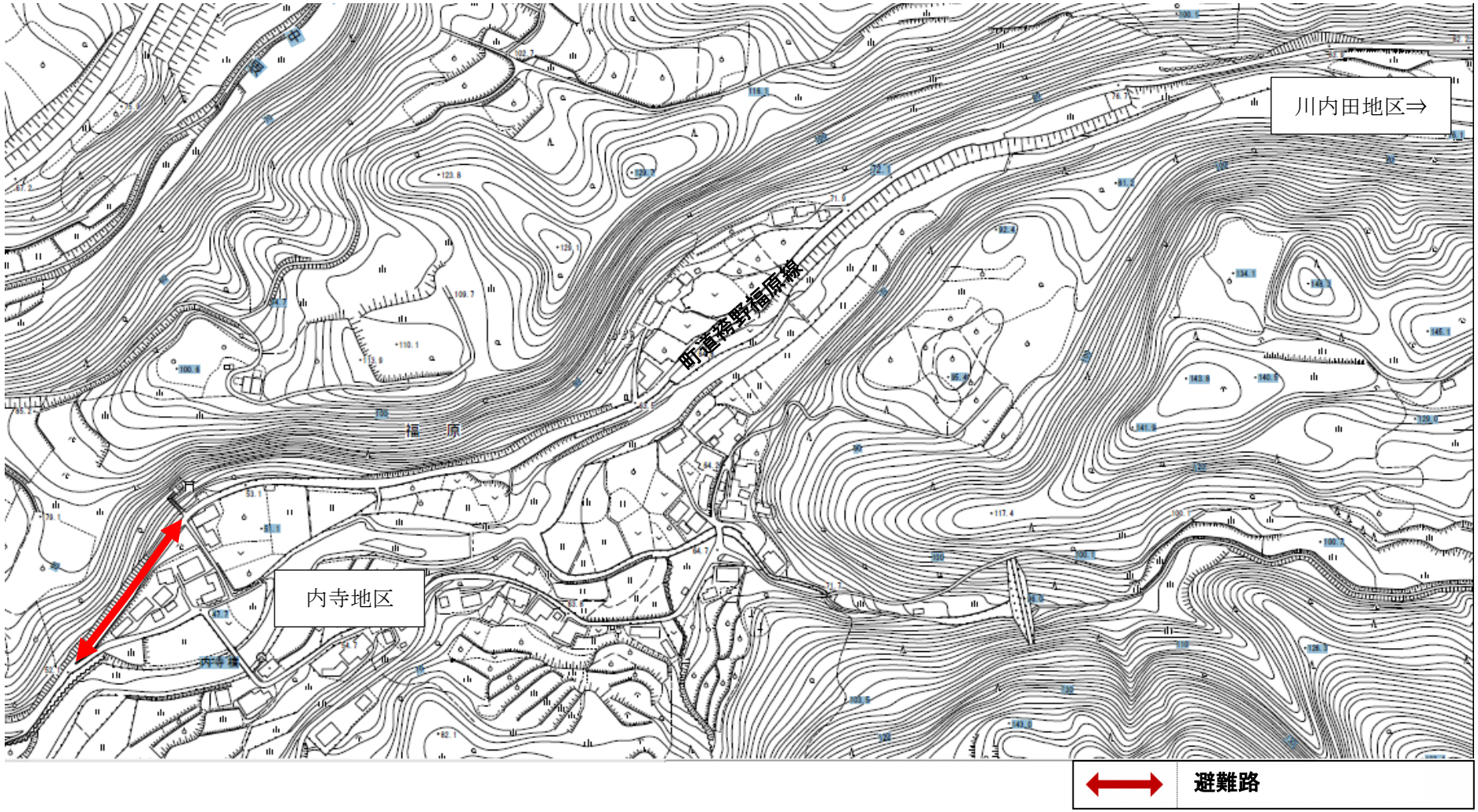

図　避難路計画図